

# 展 覧 事 業

自然史博物館の展示は、常設展示を主体とし、特別展示、特別陳列が、これを補っている。常設展示室としては、旧来の博物館建物（以下本館）にナウマン・ホールならびに第1～第5展示室があり、平成13年4月にオープンした「花と緑と自然の情報センター（略称：情報センター）」1階には、地域自然誌展示室がある。特別展示は情報センター2階のネイチャー・ホールで開催している。特別陳列はネイチャー・ホールまたは本館2階のイベント・スペースで開催している。

平成26年度の常設展入館者数は、207,526名（うち有料80,447名）、特別展120,109名（うち有料33,314名）であった。常設展、特別展を合わせた総入館者数は、327,635名であった。常設展入館者は前年度比9,792名増、総入館者数も前年度比18,071名増となった。

## I. 常設展

常設展示は「自然と人間」を基本テーマとし、具体的に身近な自然現象から出発し、分野的、地理的に、そして歴史的にも視野を広げることによって、人と自然とのかかわりをも含めた自然界の法則性に至ろうとする考えのもとで展開されている。したがって、本館の展示は、一つのストーリーに従って組み立てられている。本館入口のナウマン・ホールでは、上記の基本テーマに基づき、自然史博物館の展示のねらい、すなわち、私たち人間が、どのように自然とかかわってきたのか、そしてこれから、どう自然とつきあっていけばよいのか、ということ、象徴的に展示している。

第1展示室「身近な自然」と第2展示室「地球と生命の歴史」では、身近な大阪の自然から出発して、その歴史を地球の誕生まで遡り、第3展示室「生物の進化」では、その地球上のさまざまな環境において、生物は、他の生物と関わりを持ちながら、常に進化し分布を広げようとしてきたし、今もそうであることを述べている。締めくくりの第5展示室では、「生き物の暮らし」をテーマに、生き物たちは、生き物同士、そして私たちの生活と、どのようにつながって、どんな環境でくらしているのかを、展示している。

情報センター1階の「大阪の自然誌」展示室は、大阪の自然に関するものはすべて知りたいという市民の要望に応えることをめざしたものである。ここでは、大阪各地域の自然の特徴を地域ごとに解説する展示、大阪で見られる生物や化石の標本をできるだけ網羅するコーナー、そしてパソコンによる大阪の自然に関する情報検索コーナーを設け、多くの市民が大阪の自然について自主的に学ぶことが可能な施設となっている。さらに、学芸員による相談コーナーが、情報検索

コーナーに隣接した場所に設けられ、常時、市民の質問に答えられる体制をとっている。

平成26年度には、第2展示室から2階に上がる階段部分の壁クロスの一部張り替え補修工事を行うとともに、満足度向上もめざして「ジオラボ」・「子どもワークショップ」・「ミニワークショップ（たんけんクイズ）」等の館内行事を実施し、来館者サービスに努めた。

## II. 特別展

特別展示は、地元大阪とその周辺地域の自然誌を紹介したり、学芸員の研究成果を広く市民に還元するという趣旨で、開催してきた。13年度からは、ネイチャーホール新設を契機として、新聞社などが企画する、自然史科学あるいは生命科学に関する展覧会を積極的に誘致し共催することによって、さらに広い分野の展覧会を市民に提供することとしている。館主催特別展のテーマについては、少なくとも数年先までの計画を立てている。

### (1) 第45回特別展「ネコと見つける都市の自然

#### 一家の中から公園さんぽー」

都市は、もともとあった自然を人間がほぼ完全にくりかえることによって、新しくできた環境。もともとその場所にすんでいた生き物の大部分は姿を消している一方で、都市がつくられることによって、逆に数を増やす生き物もいる。都市には自然がないといった言い方をされることがあるが、そうではなく、山や川や海とは違って、都市には都市の自然がある。多くの人が気付いていない都市で暮らすさまざまな生き物を探し、都市生態系について考える。

1998年、第25回特別展「都市の自然」展を開催した。その開催趣旨は、上記とほぼ同じで、街の中にさまざまな生き物が暮らしていることを紹介した。それを受けての今回は、単に都市の生物相を紹介するだけでなく、都市の自然の“変遷”を一つの大きなテーマに据えた。比較的新しくできあがった都市の自然は、今なお人の手を加えられ続け、その中でどんどん変化している。その都市の自然の実態を紹介した。

本特別展は、大阪市立自然史博物館友の会会員を中心に組織した、「都市の自然調査プロジェクト Project U」のメンバーと共に実施した調査の成果の発表の場でもあった。都市の自然調査プロジェクトは、2011年4月から2014年7月まで活動し、登録メンバーは156名であった。

なお、本特別展は、大阪市立自然史博物館開館40周年記念イベントの一環として開催した。

●内容（主な展示物）

家の中の虫、都市の鳥類・哺乳類、セミの抜け殻、公園の昆虫、公園の植物・菌類。日本各地の都市のタンポポ、カミキリ、セミ、陸貝、鳥。ゴケグモ、アライグマ、カミツキガメ、外来昆虫、外来陸貝、埋立地の植物など外来生物。住吉大社、天下茶屋の湿地、吹田の草地の植物。ヘビ・トカゲ類、カエル類、アシダカグモ、アリ、陸貝の生品も展示した。企画物として、入って虫をさがせる部屋、巨大な蚊の大群、黄金御殿、巨大ゴキブリホイホイ、過去と現在の大阪市内の水田面積を示した床張り展示がある。会場での子どもワークショップが終わった10月には、ワークショップスペースにおいて、天王寺動物園から引き取った動物の骨格標本の展示を行った。

●会 期：平成25年7月19日（土）～10月13日（月祝）

●主 催：大阪市立自然史博物館

●観 覧 料：大人500円、高校生・大学生300円（30人以上団体割引あり）、中学生以下無料。本館（常設展）とのセット券は、大人700円、高大生400円。障がい者手帳などをお持ちの方、市内在住の65歳以上の方（要証明）は無料。

●入 場 者：13,275人。有料合計3,914人、29.5%（大人3,330人、高大生509人、ぐるっとパス25人、キャンパスメンバーズ50人）。無料合計9,361人、70.5%（中学生以下3,528人、高齢者1,152人、その他個人2,767人、団体1,914人）。

●キッズマップ・パネル：子どもに展示の見どころを、楽しく、判りやすく伝えるために、キッズパネルを設置し、キッズマップ（A4判両面刷り）を配布した。子ども向けを意識して、イラストを用い、平易な表現を用いたため、大人の来場者にとっても、展示を見学する手がかりとして機能していた。

●展示見学ワークシート：多くの中学生や高校生に、課題意識を持ちながら展示を見学してもらうために展示見学ワークシート（A3判両面刷り）を作成し、中学校、高等学校に配布した。

●ネコ関連企画：ネコキャラクターの「ニャンたろう」を設定し、ポスター・チラシ、解説書、及び展示パネルにも登場させた。ニャンたろうがネコ目線でコメントをつける「ニャンたろうパネル」22枚、来場者が着てみるができる「ネコマント」3種（手袋付き）、SNSを見て来た来場者に配布する「ニャン太郎免許証」、来場者に募集をかけたネコの写真館、といったネコ関連企画を展示室で展開した他、床にネコの足跡を貼って、会場にネコ要素を付け加えた。

●展示解説書：「都市の自然2014」というタイトルをつけ、大阪府を中心に都市の自然について解説した。

1998年の「都市の自然」展の解説書の内容を新しくしただけでなく、都市の自然をさらに広範囲に取り扱い、現時点での都市の自然解説の決定版を目指した。カラーページ8ページ、本文113ページ。

●連携展示：大阪市内の図書館12館において、会期前から会期中の4月～10月にミニ展示を行った。また、7月に大阪市立大学の学術総合センター、8月にインテックス大阪において開催開催された夏休み！こども冒険博でもミニ展示を行った。その他、長居植物園・長居公園の展示している生き物のいる場所に、小型パネルを取り付け解説し、展示と植物園・公園との連携の取り組みを行った。

●関連行事

・子どもワークショップ

特別展会場のワークショップスペースにおいて、小学生以下を主な対象として、2つのワークショップを実施した。

「まちなかネコさんぽ」：展示室を見て回って、ネコが食べる生き物と食べない生き物を区別して、塗り絵。「ネコさんぽ」マップに貼る。随時参加。7月20日、7月21日、7月26日、7月27日、8月16日、8月17日。参加者285名。

「おしえて！カラスはかせ」：ハカセのカラスの解説を聞き、展示を見た後、「カラスてちょう」を完成させる。1日3回のプログラム。8月2日、8月3日、8月23日、8月24日。参加者96名。

「いえのなか・きらわれものカード」：ハカセから虫の話聞いた後、「おもしろカード」を作る。1日3回のプログラム。8月9日、8月30日、8月31日（8月10日は台風接近のため臨時休館で中止）。参加者56名。

・特別展普及講演会「田舎のネコと町のネコ」

ノネコの生態研究の第一人者に、さまざまな環境でのネコの社会構造の可塑性についての講演をしていただいた。

日 時：8月16日

場 所：大阪市立自然史博物館 講堂

講 師：伊澤雅子氏（琉球大学）

参 加 者：154名

・大阪市立中央図書館講演会「都市で暮らす動物たち ツバメ、タヌキ、カエル」

大阪市内のタヌキ、市街地の田んぼのカエル、大阪市内や関西の駅のツバメの話などを紹介した。

日 時：5月31日

場 所：大阪市立中央図書館 5階 中会議室

講 師：和田 岳

参 加 者：55名

## 展 覧 事 業

### (2) 自然史博物館・長居植物園 40周年記念企画 特別展「恐竜戦国時代の覇者！トリケラトプス」 ～知られざる大陸ララミディアでの攻防～

- 会 期：平成26年3月21日（金・祝）～5月25日（日）61日間（うち平成25年度は50日間）
- 会 場：大阪市立自然史博物館ネイチャーホール（花と緑と自然の情報センター2階）
- 主 催：大阪市立自然史博物館、読売新聞社、中央宣伝企画
- 後 援：一般財団法人大阪スポーツみどり財団（長居植物園）、大阪よみうり文化センター、大阪府公衆浴場生活衛生同業組合
- 協 賛：ダイワボウ情報システム
- 協 力：国立科学博物館、天草市立御所浦白亜紀資料館、群馬県立自然史博物館、篠山市、丹波市、栃木県立博物館、名古屋大学博物館、バーピー自然史博物館、兵庫県立人と自然の博物館、福井県立恐竜博物館、北海道大学総合博物館、ミュージアムパーク茨城県自然博物館、ロイヤルオンタリオ博物館
- 観 覧 料：大人1,200円、高大生800円。特別展入場料にて、自然史博物館常設展（大人300円、高大生200円）も入場可能。中学生以下、障がい者手帳などなどをお持ちの方は無料。30人以上の団体割引あり。

大阪市立自然史博物館は西区靱2丁目（元靱小学校校舎改造）から長居公園に移転してから、長居植物園は開園から、40周年を迎えた。これを記念して開催した。

恐竜時代の最後・後期白亜紀に北アメリカ大陸の東西の分断によって出現したララミディア大陸をクローズアップすることで、そこを舞台に多様化し、繁栄していった植物食恐竜トリケラトプスの仲間の起源と進化の謎に迫る展示。アラスカからメキシコまで南北に



図1. 特別展「恐竜戦国時代の覇者！トリケラトプス」

長く伸びた西の陸地ララミディア大陸には、恐竜たちの中でも新参者としてアジアから移り住んできたトリケラトプスの仲間の劇的な進化の舞台となった。トリケラトプスの仲間がララミディア大陸内の各地域で次々に入れ替わり、その頭の飾りが派手に変化していく様子は、まるで日本の戦国時代の戦国武将の様相であった。そして、戦国時代の最後に登場したトリケラトプスが大陸の広域に分布して天下統一を果たし、恐竜戦国時代の覇者となったが、それから間もない6600万年前に恐竜は絶滅を迎えた。

日本初公開となる多数の新しい標本を用いて、トリケラトプスの仲間の起源から絶滅までの歴史を、多彩な骨格標本や生態復元モデルを通じて分かりやすく展示した。特にララミディアの多様なケラトプシア類の頭骨については、ずらりと一か所にならべ、ケラトプシア類の頭骨の展示会のようなスタイルの展示にした。さらに、中国のインロン、ララミディア大陸のズニケラトプスやカスモサウルスなど、トリケラトプスの仲間の進化史を飾った恐竜たち、および同時代にともに進化してきたティラノサウルスをはじめとする肉食恐竜たちとの対峙も、全身骨格展示によりダイナミックに展示した。本展示会は当館初のオリジナル恐竜展示であり、わずか61日間の会期で11万人もの多くの来場者が来館した展示となった。

●入 場 者：110,461人。有料37,731人（34%）、無料入場者72,730人であった。うち平成26年度の入場者は89,880人。

#### ●関連行事

- 3月21日（金）特別展記念講演会「トリケラトプスとその仲間達の謎を探る」 250名
- 3月21日（金）ギャラリートーク 60名
- 3月21日（金）～4月15日（火）恐竜ぬりえ「トリケラトプスのなかまをぬってみよう！」 351名
- 3月24日（月）ギャラリートーク 20名
- 3月26日（水）恐竜バルーンを作ってみよう！ 54名
- 3月27日（木）恐竜ハンコ教室 44名
- 3月28日（金）折り紙教室「いろいろな恐竜をつくってみよう」 61名
- 3月29日（土）折り紙教室「いろいろな恐竜をつくってみよう」 48名
- 3月31日（月）ギャラリートーク 30名
- 3月31日（月）恐竜ワークショップ「飛び出す恐竜カード」 55名
- 4月7日（月）ギャラリートーク 40名
- 4月7日（月）春休み企画「きょうりゅう寿司を作ろう」 44名

4月12日（土）ジオラボ「様々な恐竜化石をみてみよう」	61名
4月12日（土）、13日（日）、5月17日（土）、18日（日）	
子どもワークショップ「ずら〜り！トリケラ ミニびょうぶ」	482名
4月19日（土）自然史オープンセミナー「ララミディア大陸の恐竜」	89名
5月10日（土）ジオラボ「中生代の森の植物」	52名
5月10日（土）映画「ウォーキングwithダイナソー」ブルーレイ&DVDリリース記念 試写会	200名
5月17日（土）映画「ウォーキングwithダイナソー」ブルーレイ&DVDリリース記念 試写会	200名
5月17日（土）折り紙教室「いろいろな恐竜をつくってみよう」	84名
5月17日（土）自然史オープンセミナー「中生代の植物の移り変わり」	30名
5月18日（日）ワークショップ「恐竜折り紙ストラップ作り」	20名

### (3) 特別展「スペイン奇跡の恐竜たち」

- 会 期：平成26年3月21日（土）～5月31日（日）  
66日間（うち平成25年度は11日間）
  - 会 場：大阪市立自然史博物館ネイチャーホール  
（花と緑と自然の情報センター2階）
  - 主 催：大阪市立自然史博物館、読売新聞社、読売テレビ
  - 後 援：スペイン大使館、大阪スポーツみどり財団（長居植物園）、大阪府公衆浴場生活衛生同業組合
  - 協 賛：大和ハウス工業、ダイワボウ情報システム
  - 特別協力：スペイン教育・文化・スポーツ省、カスティーリャ＝ラ・マンチャ州、カスティーリャ＝ラ・マンチャ州立博物館、マドリッド自治大学、スペイン国立通信教育大学
  - 学術協力：福井県立恐竜博物館
  - 協 力：国立科学博物館、栃木県立博物館、兵庫県立人と自然の博物館、北海道大学総合博物館、丹波竜化石工房 ちーたんの館
  - 観 覧 料：大人1,000円、高大生700円。特別展入場料にて、自然史博物館常設展（大人300円、高大生200円）も入場可能。中学生以下、障がい者手帳などなどをお持ちの方は無料。30人以上の団体割引あり。
- 支倉常長（はせくらつねなが）を大使とする慶長遣

欧使節団派遣（1613年）から400年にあたる2013年から2014年にかけて、日本とスペインにおける「日本スペイン交流400周年事業」の一環として、特別展「スペイン 奇跡の恐竜たち」が企画された。

本展では、中生代白亜紀（約1億4500万年前から6600万年前）のスペインの地層から見つかった肉食恐竜「コンカベナトール」と日本の肉食恐竜「フクイラプトル」が近縁な関係であることから、これらの恐竜を比較するとともに、スペインの様々な恐竜を紹介している。2010年にイギリスの科学誌「ネイチャー」で発表された、腰部分に奇妙な突起をもち、羽毛や手足の裏の肉球のあとが残る“奇跡的”な保存状態の恐竜「コンカベナトール」の全身骨格標本をはじめ、スペインから発見されている白亜紀の様々な恐竜化石や初期の鳥類化石、そして生息環境を示す動植物の化石を多数展示している。

日本ではこれまで、北アメリカ、南アメリカ、モンゴル、中国などで産出した恐竜化石がしばしば紹介されてきたが、スペインも世界有数の恐竜化石産地である。これほど大規模なスペイン恐竜展は国内では初めてで、展示物もほぼすべてが日本初公開となっている。  
※関連行事など詳しくは館報41号に掲載する。

## Ⅲ. 特別陳列

特別陳列は、特別展と同様な趣旨で行っているが、より小規模なもの、あるいはテーマを絞ったものであり、また市民からの寄贈品・コレクションの紹介も含めて、随時実施している。

### ■ミニ展示 270万年前に出現したクロマツ～日本列島に生育するクロマツの起源と歴史を解明～

金沢大学と共同で行ったマツ属の化石研究において調査したクロマツの化石とオオミツバマツの化石（いずれも三木茂コレクション）をナウマンホールにて、平成26年1月25日（土）～5月25日（日）に展示した。

### ■ミニ展示「植物標本のタネは地域の自然を救う!?」～時を越えて発芽する植物標本のタネ～

- 会 期：2014年3月15日（土）～5月31日（土）
- 会 場：自然史博物館本館 2F 第5展示室出口
- 主 催：自然史博物館
- 監 修：新潟大学教育学部 植物学教室
- 概 要：大阪市立自然史博物館の標本庫には、都市化などによって現在では失われてしまった植物の標本を数多く保管している。今回の展示では、志賀元学芸員の科学研究費によ

## 展 覧 事 業

る研究成果を元に、これらの植物標本に残されたタネ（種子）に注目し、博物館標本を用いた新しい生物保全の可能性について、植物標本と標本から撒きだしたタネ、実際に発芽した芽生え（生品）や写真などをミニ展示を通して紹介した。

### ■自然史博物館・長居植物園 40周年記念企画 恐竜戦国時代の「エサ」?! 一化石と長居植物園で知る植物の進化一

恐竜が食べたかもしれない植物に触ってみよう!

会 期：平成26年4月26日（土）～5月25日（日）  
会 場：花と緑と自然の情報センター2階 アトリウム

主 催：大阪市立自然史博物館・大阪市立長居植物園  
概 要：中生代には様々な恐竜が栄えたが、「エサ」となった植物があったからこそ植物食恐竜は栄えた。そして、植物食恐竜が栄えたからこそ、肉食恐竜も栄えたと言える。植物があつてこそ、恐竜だけでなく、地球の生物は存在できた。

展示では、恐竜のエサとなった植物化石の他、地球最古の陸上植物から、現在栄えている被子植物までの化石を展示し、化石をもとに、5億年の植物の進化をたどった。

自然史博物館がある長居植物園には、恐竜が生きていた時代に栄えた植物の子孫（イチヨウ、ソテツ、アロウカリアなど）が植えられている。また、メタセコイア、セコイア、ユリノキなどの、化石として日本からは見つかるが、日本列島からは消滅した植物も植えられている。長居植物園の樹木にも、「恐竜のエサとなった植物」、「日本列島からは消滅した植物」の表示を行い、化石と長居植物園の植物を通して、恐竜戦国時代の「エサ」、植物の歴史、日本列島の太古の時



図2. 恐竜戦国時代の「エサ」?!

代の森に思いを巡らせる展示を行った。

会期中に開催していた特別展「恐竜戦国時代の覇者! トリケラトプス ～知られざる大陸ララミディアでの攻防～」とも関連した展示となった。

主な展示物：クックソニア、クックソニア（復元模型）、カラミテス、アロウカリア（球果、幹）、メタセコイア、ユリノキ

### ■ミニ展示 ミュージアムウィークス大阪2014 大坂の陣400年

「大阪城の石垣の石材」

会 期：平成26年10月1日（水）～11月3日（月・祝）

発掘調査が行われた豊臣期大坂城の石垣と徳川期大坂城の石垣に使われている石材について解説し、推定される産地の石材と同じ岩石を収蔵標本から選定して本館1階 入口脇の展示スペースで展示した。

### ■ミニ展示「大山桂貝類学文庫の貝類図譜」

会 期：平成26年10月18日（土）～11月9日（日）

詳細は8ページ参照。

### ■夏休み 自由研究・標本展

会 期 2014年12月6日～2015年2月1日

場 所 自然史博物館本館2階イベントスペース

主 催 大阪市立自然史博物館

概 要 児童生徒が夏休みに行った自由研究や、作成した標本を展示した。生き物や化石・岩石がテーマの作品を対象とし、関連する分野の学芸員による講評を付けた。

展示内容 Nature Study11月号で作品を募集をした。11名の児童（未就学児1名を含む）による、植物、昆虫、動物、菌、プランクトン、化石などを対象とした自由研究・標本を展示した。

### ■ミニ展示「タンポポの不思議を探ろう」

サクラや菜の花同様、誰もが春の花としてその名を飾るタンポポ。春休み、そして春の遠足シーズンを前に、タンポポのちょっとした生態とともに自然史博物館が開発した学校向け貸出教材の紹介の意味を含めて、本館1階入口脇の展示スペースで平成27年2月17日から展示している。

## IV. 館外での展示

市立図書館・市民学習センターなどの依頼に応じて、また特別展の広報を兼ねて、小規模な移動展示を

行っている。

### ■「生物多様性協働フォーラムいのちにぎやか、文化ゆたか。 ～いのちと文化の共鳴をよみがえらせる～」

月 日：2014年12月21日  
場 所：京都市京都劇場  
主 催：生物多様性協働フォーラム事務局  
共 催：京都府、京都市  
協 力：当館他  
概 要：京都の文化と生物多様性保全をテーマとした講演会とパネルディスカッション

大阪市立自然史博物館及び大阪自然史センターが活動紹介をパネル出展、また佐久間学芸員がパネルディスカッションコーディネーターとして登壇した。

### ■「夏休み こども冒険博」

期 間：平成26年8月2日～22日  
会 場：インテックス大阪  
主 催：（一財）大阪国際経済振興センター、テレビ大阪  
後 援：大阪府、大阪市、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会  
協 力：大阪市立自然史博物館他  
概 要：「出張 大阪市立自然史博物館 ネコと見つける都市の自然と大阪の化石」というタイトルで、同時期に開催中の特別展のダイジェスト展示と、大阪の化石を紹介した。

## V. 「たんけんクイズ」

自然史博物館は、大阪市内の他の社会教育施設と同様、平成7年より小中学生の入館料を無料としている。このような状況の中で、展示をよく見ることによって、学習効果をいっそう高めることをめざし、平成8年7月より「自然史探検すくらっちクイズ」を、実施してきた。入館時、小中学生に各1枚手渡し、5問中正解4問以上の場合には、絵はがきまたは昆虫カードを記念品として配布している。ただし学校団体での見学は対象外としている。

問題のカードは各5問で、当初は10種類であった。平成16年7月からは、あらたに低学年（小学1～3年生）向けに4種類のカードを制作し配布を始め、従来のカードは4年生～中学生向けとした。

さらに平成17年7月以降の土・日曜日には、専任スタッフによるカードの配布を開始した。その際カードに自由に書き込みできる用紙を添付し、毎月テーマを決めて参加者に絵を描いてもらい、その絵を館内に掲

示するなどした。

平成18年3月からは名称を「たんけんクイズ」にあらためた。平成24年度の春には、第5展示室の問題を入れるなど、改訂を行った。

## VI. その他

- (1) 「関西文化の日」の11月15日（土）ならびに16日（日）を無料開放とした。
- (2) 3月23日（月）、30日（月）、4月6日（月）を臨時開館し、特別展「スペイン 奇跡の恐竜たち」では、学芸員によるギャラリートークを開催した。